

■ 本文

- ① 田子の浦ゆ うち出でて見れば 真白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける（山部赤人『万葉集』）
- ② 銀も 金も玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも（山上憶良『万葉集』）
- ③ 東の 野にかぎろひの 立つ見えて かへり見すれば 月かたぶきぬ（柿本人麻呂『万葉集』）
- ④ ひさかたの 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ（紀友則『古今和歌集』）
- ⑤ 人はいさ 心も知らず ふるさとは 花ぞ昔の 香に匂ひける（紀貫之『古今和歌集』）
- ⑥ 思ひつつ 寝ればや人の 見えつらむ 夢と知りせば 覚めざらましを（小野小町『古今和歌集』）
- ⑦ 見渡せば 花も紅葉も なかりけり 浦の苫屋の 秋の夕暮れ（藤原定家『新古今和歌集』）
- ⑧ 心なき 身にもあはれは 知られけり 鳴立つ沢の 秋の夕暮れ（西行法師『新古今和歌集』）
- ⑨ 春の夜の 夢の浮橋 とだえして 峰にわかるる 横雲の空（藤原定家『新古今和歌集』）

■ 設問（全24問）

1. 和歌①について、次の各問いに答えよ。
 - (1) この歌全体を現代語訳せよ。
 - (2) この歌は後に『新古今和歌集』や『百人一首』では「田子の浦に うち出でて見れば 白妙の富士の高嶺に 雪は降りつつ」の形で知られる。『万葉集』の本文（傍線部を含む本問の本文）と比べて、結句が「降りける」「降りつつ」のどちらになっているかを、それぞれ答えよ。
2. 和歌②「銀も 金も玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも」を現代語訳せよ。
3. 和歌②の作者「山上憶良」が詠んだ、貧しさを主題とする『万葉集』の代表的な長歌の名を答えよ。
4. 和歌③「東の 野にかぎろひの 立つ見えて」の「かぎろひ」とは何か。簡潔に説明せよ。
5. 和歌④「ひさかたの」は、ある語を導く枕詞である。次の各問いに答えよ。
 - (1) 「ひさかたの」が導く語を、本歌中から抜き出せ。
 - (2) 枕詞とはどのような表現技法か、簡潔に説明せよ。
6. 和歌④「しづ心なく 花の散るらむ」を、「らむ」の意味に注意して現代語訳せよ。
7. 和歌⑤「花ぞ昔の 香に匂ひける」には係り結びが用いられている。係りの助詞と、それを受けて結びとなっている語（活用形を含む）を答えよ。
8. 和歌⑤「人はいさ 心も知らず」を現代語訳せよ。

9. 和歌⑥「思ひつつ 寝ればや人の 見えつらむ」の作者は、六歌仙・三十六歌仙にも数えられる平安前期の女流歌人である。その作者名を答えよ。
10. 和歌⑥「夢と知りせば 覚めざらましを」には、「せば…まし」の形の反実仮想が用いられている。この部分を現代語訳せよ。
11. 和歌⑦「見渡せば 花も紅葉も なかりけり 浦の苫屋の 秋の夕暮れ」の末尾は、ある修辞で結ばれている。次の各問いに答えよ。
- (1) 体言（名詞）で言い止めて余情を残すこの修辞を何というか、漢字で答えよ。
- (2) この歌のように、結句が「秋の夕暮れ」で結ばれた西行・寂蓮・定家の三首は、まとめて何と呼ばれるか。漢字三字で答えよ。
12. 和歌⑧「心なき 身にもあはれは 知られけり」を現代語訳せよ。
13. 和歌⑧「鳴立つ沢の 秋の夕暮れ」の句切れを答えよ（初句切れ・二句切れ・三句切れ・四句切れ・句切れなしのいずれか）。また、なぜそう判断できるかを簡潔に記せ。
14. 和歌⑨「春の夜の 夢の浮橋 とだえして」の「夢の浮橋」は、ある古典作品の最終巻の巻名を踏まえているとされる。その作品名を答えよ。
15. 和歌①～③は、いずれも同じ歌集に収められている。その歌集の名を漢字で答えよ。
16. 和歌④～⑥が収められている歌集の名を漢字で答えよ。また、この歌集の二人の代表的な編者（撰者）の名を一人挙げよ。
17. 和歌⑦～⑨が収められている歌集の名を漢字で答えよ。
18. 『万葉集』の素朴で力強い歌風を表す語を、次から選べ。
- ア たをやめぶり イ ますらをぶり ウ 幽玄
19. 『古今和歌集』の優美・繊細で技巧的な歌風を表す語を、漢字仮名交じりで答えよ。
20. 『新古今和歌集』が理想とした、言葉の奥に深い余情を感じさせる美的理念を表す語を、次から選べ。
- ア ますらをぶり イ をかし ウ 幽玄
21. 『新古今和歌集』に多く用いられた、有名な古歌の語句を取り入れて新たな余情を生み出す表現技法を何というか、漢字で答えよ。
22. 次のア～ウの説明に当てはまる歌集を、それぞれ『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』から選んで答えよ。
- ア 現存する最古の和歌集で、天皇から庶民まで幅広い人々の歌を収め、力強く素朴な歌風をもつ。
- イ 紀貫之らが編んだ最初の勅撰和歌集で、仮名序をもち、技巧的で優美な歌風をもつ。
- ウ 後鳥羽院の命で藤原定家らが編んだ勅撰和歌集で、本歌取りや体言止めを駆使し、幽玄・余情を理想とする。
23. 三大集を成立した時代の古い順（成立年代順）に並べ替え、歌集名で答えよ。
24. 『古今和歌集』の冒頭に置かれた、紀貫之による有名な仮名の序文を何というか、答えよ。